

上田女子短期大学附属幼稚園における 造形活動研究報告および考察

笹井 弘

Sasai Hiromi

キーワード：貼り絵・紙版画・スチレンボード版画

はじめに

平成21年度より附属幼稚園年長クラス二組において「陶芸あそび」と「版画あそび」の造形活動を始めた。その活動については、児童文化研究所「所報」第33号（2011、3）において既に報告した。その後、年長クラスの二つの活動を継続しながら平成24年度より年少クラスならびに年中クラスの造形活動も開始した。年少クラスは、年齢的に造形活動もかなり絞られる。また、年中クラスについては、幼稚園の先生方のアドバイスや希望を取り入れ、年長クラスでの造形活動につなげることを主な目的にした。

平成24年度の年少クラス二組では、実習巡回指導で伺ったある幼稚園園長の3歳児に対する活動の考え方を参考にして造形活動を企画した。それは、夏のプールでの活動において、プールに3歳児を飛び込ませるには、ただ飛び込めと言っても躊躇してなかなか飛び込めない。しかし、浮き輪を水面に浮かべ飛び込む目標を設定してやれば飛び込めるものなのだ。

そこで、それを造形活動に当てはめ、あらかじめ画用紙に描いた黒い（汚い色）チューリップを目標に設定し、黒のチューリップの上に鮮やかな色の色紙を貼ることで黒色を覆い隠し、明るい色の美しいチューリップへ変身させた。

平成25年度の年少クラスでは、花が1本も活けてないフェルト製の花瓶を画用紙の下部に貼り付けた。その花瓶の上の空間を目標に子どもたちがちぎった色とりどりのおはな紙で花がいっぱい咲いた花瓶を完成させた。

平成24年度の年中クラス二組では、版画の仕組みの理解と年長で実施しているコラグラフ版画につなげる目的で身近な野菜や果物をモチーフにして紙版画を行った。

平成25年度の年中クラス二組では、前年度の紙版画の結果を踏まえ素材に重点を置いたスチレンボード版画を実施した。版画の経験が初めての子どもたちにとっては大変興味をそそる造形活動となった。

ここでは、年少クラスならびに年中クラスの2年間の合計4回の活動について活動計画書を添

えて、報告と多少の考察を試みた。

平成24年度 附属幼稚園・年少クラス造形活動・貼り絵「きれいな花にしよう」		
日 程	7月11日（水）10:30-11:00	準備10:00
概 略	8枚の画用紙に色がとても汚い30cm 四方のチューリップの花が描かれている。あらかじめ約4cm 四方にちぎったファンタジーカラー色紙を、子どもたちがその花の汚い色を覆い隠すようにのりをつけ貼り付けることで、汚い色のチューリップがきれいな色のチューリップへと変化していく。グループ毎に色が異なる色紙を使用する。	ファンタジーカラー色のグラデーションがついた色紙
ね ら い	1、チューリップのきれいな色を感じる 2、グループで協力して作品を完成させる 3、貼り絵をとおしてのりの使い方と結果を体験する	
対 象	すみれ1組、2組 43名	5~6名×8グループ
活動手順	1、本物あるいは絵本、写真などで本来のチューリップのきれいな色を見せ、色のきれいさを認識させる 2、汚い色のチューリップを見せ汚くなってしまった理由を話し、みんなできれいな色のチューリップへ変化させると伝える 3、既に途中まで色紙を貼り付けた作品見本を見せながら、完成を想像させる 4、糊のつけかた、貼り付ける方法を説明する 5、制作開始を告げる 6、汚い色が消えた時が完成と伝える 7、完成・展示	
準備・材料	1、グループ分け 2、のり 3、ぬれた手ふき 4、チューリップが描かれた画用紙8枚 5、ちぎった色紙 6、チューリップの束、本物かそれに代わる物 7、途中作品見本	1、2、3は園で用意
指 導	笹井	手伝い：芸術コース（美術）1名

貼り絵「きれいな花にしよう」活動記録



1、挨拶と説明



2、チューリップを見せる



3、貼り方



4、黒く塗られたチューリップ



5、半分貼った状態



6、完成



7、ちぎった色紙



8、講評



9、展示

考 察

3歳児の造形活動は、遊びと区別することは難しいが、附属幼稚園においては先生方の協力を得て、午前中の30分間とても充実した造形活動を行うことができる。貼り絵は年齢に適した造形活動の一つだが、どの程度の量を貼り付ければ完成とするのか、個々の集中力や指導者の設定により変わる。今回は、黒い色が見えなくなることを目標に置いたため全グループが同じ完成度を持った作品を制作することができた。その意味ではどのグループも目標を達成し充実した造形活動に見えるが、完成作品を展示してみると色が違うだけで同じような作品が8枚並ぶという自由な表現に欠ける内容となってしまった。

それらを踏まえ次回は、自由な表現をもっと取り入れながら、園児達が沢山の紙を貼ることができたことで充実感を味わえ且つ表現欲求を満たすような工夫をしたい。そのためには ① 多様な花の種類を用意する ② 貼る場所を広く設定し、花の形や色を規定しない ③ 色紙の色数を増やす などの工夫をしたいと考えている。

平成25年度 附属幼稚園・年少クラス造形活動・貼り絵「花がいっぱいの花瓶にしよう」		
日 程	7月10日（水）10:30－11:15	準備10:00－
対 象	年少1、2クラス61名	(11グループ)
概 略	画用紙の下部にフェルト製のいろいろな形の花瓶の形が貼り付けられている。その11個の花瓶におはな紙で糊付けし、花瓶に沢山の花が活けられえている様子を創出する。葉や茎は指導者が必要に応じて描いておく。	フェルト3色
ね ら い	1、沢山の花の集まりの美しさを感じ、作り出す。 2、おはな紙をちぎる、貼るを楽しむ。 3、グループで協力して作品を完成させる。 4、貼り絵をとおして、糊の使い方と結果を体験する。	
活動手順	1、本物あるいは絵本、写真などで沢山の花の集まりを見る。 2、おはな紙は柔らかいので園児にちぎらせる。 3、おはな紙の糊付けの説明（おはな紙は柔らかく糊を付けにくいので画用紙に糊をつける）、使う指の説明	おはな紙4色 赤・ピンク・ 黄色・水色・白
材料・道具	1、のり 2、ぬれた手ふき 3、フェルトが貼られた11枚の画用紙 4、おはな紙 5、花の束 6、完成見本（必要があれば見せる）	グループ分け
指導	笹井	学生の手伝いな し

貼り絵「花いっぱい花瓶にしよう」活動記録



10、茎が描かれた空の花瓶



11、おはな紙



12、制作の説明



13、おはな紙をちぎる



14、画用紙にのりを付ける



15、おはな紙を貼る



16、半分おはな紙が貼られた



17、完成



18、各作品を紹介

考 察

今回は、前年度のチューリップの貼り絵の問題点を改善し、より自由に表現欲求が満たされるように以下の工夫をした。

- ① 園児がおはな紙をちぎる
- ② 貼り付ける目標を花束とし、貼る場所を広く設定した
- ③ 4色のおはな紙を使用した
- ④ 花瓶の色と形をグループ毎に変えた

以上を改善したことで自由な表現が多少拡大できたように感じるが、指導者には依然としてもっと自由な表現活動に結び付けたいという思いが残る。おはな紙は薄く柔らかいので園児は貼り付けるときに糊と混ざって貼り付け難い部分もあったようだが、沢山の紙の花を咲かすことができた。

次回は、より自由な表現を目指して案を立てたいと考えている。

平成24年度 年中クラス・紙版画「好きな野菜や果物を描く」		
1 回目	11月26日（月）10：30－11：30	版の制作
2 回目	12月3日（月）10：30－11：30	刷り
対 象	年中クラス63名	16グループ
ね ら い	<p>1、果物や野菜の形を観察しそれぞれの形を作り出す。</p> <p>2、版画の楽しさや不思議さを体験する。同時に版画の仕組み、たとえば版制作では画用紙をモチーフの形からちぎったり切ったりして貼り付け凹凸にしないと印刷した時に形が出ないことや、左右逆転することなどを知ることによって版画を理解し年長でのコラグラフ制作につなげる。</p> <p>3、糊を画用紙にしっかりつける、糊の使い方を習得する。</p> <p>4、ローラーやバレンなど道具の使い方を習得する。</p>	
1 回目	<p>版制作は、果物や野菜から好きなものを2つ選び、形を観察しその形から画用紙を手でちぎったりハサミで切ったりして、厚紙にしっかり糊付けた後自然乾燥させる。本物の果物や野菜は全員から見える位置に展示し移動はしない。1机に4人がけ。</p>	
2 回目	<p>印刷では、版画用黒インクをローラーで良く練り、ローラーを版上で転がすことでインクを着け、和紙を版の上に置きバレンでこすり転写して完成させる。机を各グループの印刷台として一人ずつ交代で印刷作業をする。終了したところで、ローラーとインクトレーを水洗いする。</p>	新聞紙で机の養生
材 料	<p>1、版用厚紙（20×28cm）63枚 2、画用紙（ちぎり用）八つ切り63枚 3、版画用黒インク（水性）400g10本 4、インク練用トレイ 5、バレン 6、印刷用和紙100枚 7、ローラー小・大 8、モチーフ用果物と野菜本物適宜 9、糊 10、古新聞紙 11、ハサミ 12、糊 13、古新聞紙</p>	
指 導 計画・準備	<p>長檜 笹井</p>	<p>学生の手伝い なし</p>

紙版画「好きな野菜や果物を描く」活動記録



19、モチーフの説明



20、画用紙をちぎり貼る



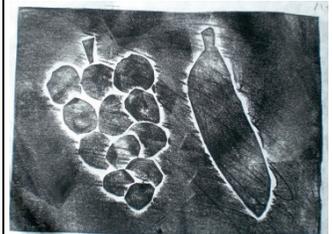
21、版の完成



22、刷りの説明



23、インクをつける



24、完成

考 察

年中クラスでの造形活動は今回初めて行った。附属幼稚園の先生方からのアドバイスで年長クラスで行っている「コラグラフ」の前段階として版画の理解と体験を目的に紙版画を行った。モチーフは身近で親しみのある野菜や果物とし作業台横のテーブルに本物を並べた。好きなもの2つを描くことで刷った時に左右が逆転することを理解させたかった。また、ハサミを使える能力は個人差が大きいとのアドバイスがあり画用紙を手でちぎって貼り付けた。

幼稚園教諭免許と保育士資格を持つ長檜先生は、優しく諭すように見本を見せながら子どもたちに制作手順について説明を行った。導入の際、モチーフをどれだけ意識させるか、打ち合わせでは、形が思い出せない人は見てください程度としていたが、それ以上に形を意識させる説明になってしまったためか、4歳児にはやや難しい課題となってしまった。多くの園児が形の確認のためにモチーフに殺到する結果となってしまった。

これについて後日、水野副園長（当時）から、子どもたちは一言も聞き逃すまいと一生懸命指導者の言葉を聞いているので素直に反応してしまった結果と説明があった。また、色とりどりの野菜や果物に対して白黒印刷だったため、色についても子どもたちには物足りなさが残ってしまった様子との指摘もあった。しかし、版画の仕組みの理解にはつながったようだ。

この経験をいかして次回は、子どもたちの表現の欲求をもっと満たす版画活動につなげたいと考えている。

平成25年度 附属幼稚園・年中クラス造形活動「スチレンボード版画」		
1 回目	5月22日（月）10:30－11:30	(版の制作)
2 回目	5月27日（月）10:30－11:30	(刷り)
対 象	年中クラス47名	グループ数12
ね ら い	1、版画の楽しさや不思議さを体験する。同時に版画の仕組み、割りばしや爪楊枝で凹凸にしないと印刷した時に形が出ないことや、左右逆転すること、コピーができることなどを知ることで版画を理解し年長でのコラグラフィ制作につなげる。 2、ローラーやバレンなど道具の使い方を知る。	
1 回目 の 活動内容・ 方法	1回目の版制作は、つるつるの素材を認識させた後、割りばしや爪楊枝などで版に直接力を入れ線描することで凹凸をつける。雨のつもりで割り箸や爪楊枝で版をつついて穴を開ける、電車や車や飛行機が飛ぶように縦横斜めの線を引く、リングやミカンのつもりで丸を描くなど身近に知っている形や現象に結びつけて描く。	
2 回目 の 活動内容・ 方法	2回目の印刷では、版画用黒インクをローラーで良く練り、ローラーを版上で転がすことでインクを着け、和紙を版の上に置きバレンでこすり転写して完成させる。机を各グループの印刷台として新聞紙を敷き一人ずつ交代で印刷作業をする。終了したところで、ローラーとインクトレーを水洗いする。	
指 導	笹井	手伝い：5月27日2年生3名と実習生

「スチレンボード版画」活動記録



25、これスチレンボード



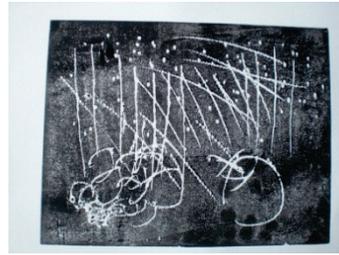
26、雨が降ってきた・・・



27、版の完成



28、ローラーで・・・



29、完成



30、印刷後の版

考察

昨年度の紙版画を踏まえ、先生方のアドバイスを受け難しい課題にならないことと素材を楽しむこと、および版画の原理の理解に重点をおいて、1回目の版の制作では以下のように実施した。

- ① スチレンボードを配布し、触ったり持ったりして素材のつるつるさ、やわらかさ、軽さを体験した。
- ② 爪楊枝で、雨が空から降ってきました、と点をうたせ、少し風も出てきました、と線を掘らせ、強い風になり雨は横からも降ってきたと、一層強い線を掘らせた。風でリンゴが1個落ち、ブドウも落ちた、とリンゴとブドウの丸を描かせた。園児は綺麗だったスチレンボードに本当に線や穴を開ける手応えと快感を感じて楽しんだ。

これ以上手を加えると形が不明になる恐れがあったため15分ほどで版の制作は終了した。予定では60分を用意していた。次回は版制作と刷りを一回で行うことも考えたい。

2回目の刷りでは、各机に先生や学生ボランティアあるいは実習生1名についてもらい、園児が自ら刷り上げた。インクをローラーを使ってこねる楽しさ、画用紙を版からはがした時に園児たちが見せた驚きと左右逆になっている不思議さからくる表情を忘れることができない。

計画案作成の前に紙版画は紙を重ねることで、スチレンボード版画はマイナスすることで凹凸を作るにも関わらず同じ凸版であることを園児が混同しないかと危惧したが、それについては個々の園児の今後の版画との関わり方の問題として、とりあえず今回は忘れることとした。

おわりに

例年保育園協会との懇談会に出席すると造形に明るい役員から最近の保育士は「塗り絵」は描けるが「絵」が描けないと言われる。確かに本学の学生もモチーフをすぐ携帯等で撮影し、三次元を二次元に置き換え撮影された画面を見て描く学生が多い。壁画や絵本制作では、既成のキャラクターものがかなり多く創造性に乏しい。自らの目と感覚で空間を把握して三次元を二次元に置き換えることやキャラクターや話を創出することがめんどくさいと言う学生が目立つ。なぜこのような状態になったのか簡単に説明できないが、役員が落胆する気持ちはよく理解できる。義務教育での美術科目の減少をその大きな理由に上げる人もいる。その上、本学幼児教育学科の場合、高校で美術を履修した学生は例年入学者の1割に満たない。そのような学生にとって短大で改めて美術を思考するには手遅れの部分が多すぎる。だからと言って責任を放棄するつもりはない。たとえ「絵」が描けなくても基礎的な表現方法と指導方法を体験的に習得することで造形活動に臆することのない保育者に育てたい。

幼児の造形と関わり6年が過ぎた。附属幼稚園の年長クラスに関わって4年、年少と年中クラスに関わって2年が過ぎようとしている。附属幼稚園の水野園長始め担任やお手伝いの先生方の指導や準備のお蔭で成り立っている造形活動だが、ここから得たものを短大の授業にフィードバックすることで裏付けのある造形指導に役立てたいと考えている。

附属幼稚園の全ての教職員の皆様にこの場をお借りして感謝とお礼を申し上げたい。